

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100399		
法人名	有限会社 稔りの安らぎ		
事業所名	グループホーム 稔りの安らぎ		
所在地	静岡県掛川市西大淵6803-2		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://spt.jp
----------	-------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人環境福祉センター		
所在地	〒424-0826 静岡県静岡市清水区万世町2-7-4		
訪問調査日	平成22年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

独自の生き方、個性を尊重してその人らしい過ごし方をしてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長と職員が協働した明るい笑顔の対応をし、ホーム全体が柔らかな雰囲気である。各ユニットには、談話や横になってゆっくりくつろげる畳コーナーと車椅子も利用できる広いトイレが3箇所設けられているなど、ホーム全体が利用者に優しくできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎月の職員会議で取り組んでいる。 ・朝礼で基本理念を唱和し意識の高揚に勤めている。	基本理念は各ユニットと事務所に掲示されている。また、朝食では必ず唱和している。職員会議では、理念の意義を踏まえ介護等の課題について話し合い、意見統一をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・12月の地域防災の日に、地域の防災訓練に職員と利用者代表が参加している。 ・地域自治会との交流活動は行っていない。 ・10月に開催される横須賀の小さな文化展を見学。	散歩や買物などに出かけたとき、近隣の人達と挨拶を交わしたり話しをしている。たまには食物の差し入れをしてくれる人もいる。また、学校の生徒による福祉体験実習生を受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	21年度2回実施 利用者家族と区長を対象に利用者の現状と地域防災訓練への参加について報告。	会議には、利用者の家族と区長等が参加し、主に施設の状況と行事開催状況を報告している。会議録は職員全員に供覧している。	運営会議委員には家族・区長以外にも他の団体の方が参加し、会議は2ヶ月に1回の開催が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的には行っていない。事故報告等連絡する事象が発生したときに行っている。	市が主催する連絡会議には必ず出席するようにしている。また、研修会、講習会にできる限り参加するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていません。	勉強会を施設内で実施し、職員の共有意識を図っている。自由な暮らしの大切さを認識し、玄関は施錠をしていない。利用者が外出しそうな場合、一緒について行く等、安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を	・虐待は行なわれていません。 ・21年、高齢者虐待防止関連法の学習会は行なっていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用でき	制度についての外部研修、内部研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書の内容、重要事項説明書については家族に対して説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に聞く機会は設けていないが、面会・運営推進会議の時に意見を聞くようにしている。	家族の面会の際は、運営会議推進会議で出された意見や要望はミーティングで話し合い、運営に反映している。また、家族にも伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の時に意見・提案を聞いている。	毎月のミーティングには、管理者も出席し職員の意見や要望を聞いている。検討結果は必ず回答し、運営に反映させている。また、会議録は全員に供覧している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境を整備している	職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていく	21年度、内部研修、外部研修は実施していません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させ	必要に応じて行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	雑談、世間話等を積極的におこなって、困っている事、要望等を聞き出すようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近況をこまめに電話で連絡し、面会時にも状況を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題分析を行なって、必要な介護、支援内容を把握してサービスを行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者から教えられる事も多く、共に感心したり喜んだりする事で、気持ちを通じ合わせるよう心掛けている。 ・生活を共にしながら支えあう関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が本人を支えていただけるように、家族への働きかけを行なっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や知人が面会に来てくれるようお願いをしています。 ・家族に外出等の時には、知人との面会等をお願いしている。	通院や買物には、職員が付き添い案内をしている。墓参り、グランドゴルフ等には、家族が付き添うなど、一人ひとりの生活習慣を尊重し、本人の希望をかなえている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者同士を中心に、和が保てるように工夫しています。 ・利用者同士のトラブルを未然に防ぐように常に配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めて	利用者、家族から相談があれば積極的に相談にのっています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人その人なりの生き方に合わせた介護・支援を心掛けている。	日常のかかわりの中で声かけ、利用者の思いを把握することに努めている。意思疎通の困難な方には、家族からの情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人及び家族からこれまでの生活歴を聞き把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人なりの価値観、性格等を十分に把握して介護を心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、	計画案を作成した段階で本人と話し合い、家族には郵送して意見を聞くようにしています。面会時を利用して話し合いを持っています。	本人又は家族から出された意見や要望をミーティングで話し合い、現状に即した介護計画になるように配慮している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に一回定期的に介護計画の見直しをし、必要に応じて不定期で見直しを行なっています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組ん	個別の状態に合わせた介護、支援及び要求に対応したサービスを行なっています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は行なわれていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援	かかりつけ医との連携は、直接又は家族を通して行なっています。	本人や家族ご希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は、ご本人やご家族の希望に応じている。受診内容は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護職との連携は行なわれていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関	主治医又は医療ケースワーカーと連絡を密に行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて家族に説明をし、医療機関の利用や他の老人施設への移行についても支援しています。	本人や家族の意向を踏まえ、医師及び職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は出来ていません。	近隣に住宅がないため、地域との協力体制は地理的に取れていない。ただ、年2回の避難訓練は行われている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を大切にしプライバシーを尊重したことば掛け等に充分配慮している。	職歴等に配慮した言葉掛けをしている。入浴時もプライバシーを尊重し、原則一人ひとり入浴できるように心がけている。特に目立たず、さりげない言葉掛けや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重した介護を行なっています。筆談。身振り手振り等を使って利用者の意見、希望を聞き自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の考えや希望を受け入れて、個々のペースに合わせた介護、支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・理容、美容は2ヶ月に一度行なっています。身だしなみおしゃれについては充分とはいえません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・良事は職員と一緒に楽しく食べています。 ・下膳できる人は自分で行なっています。 ・盛り付け調理に関しては行なっていません。	異食のある人がいるため、注意を払っている。食前には順番決めて、食事前の挨拶をしている。食事を1日の大切な活動のひとつと捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分摂取については出来ています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握してトイレ誘導することで、排泄の失敗を減らしオムツへの依存を避けるようにしています。	自尊心に配慮し、利用者を見守りながら、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。また、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示を受けながら食事の改善、薬の投与等を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の希望を受け入れて行なっています。入浴回数は夏季は2日に1回、それ以外の季節は3日に1回。	職員が一方的に入浴時間を決めず、利用者のその日の希望を確認し、入浴していただいている。入浴回数は利用者の意向を反映している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の睡眠パターンに合わせた支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の副作用等を把握して十分に注意しています。状態の変化があればかかりつけ医に受診しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・潜在能力を引き出すように心がけ、活力のある生活を送れるように支援しています。 ・気の合う同士でのトランプ、将棋。裁縫、塗り絵、計算ドリル等も取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩、日光浴を行なっています。 ・外出は月に1回程度。外出は家族の協力もお願いしています。	外出は気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として重要と考え、特に積極的に活用している。ただ、家族の人が積極的に外出させるケースが少ないため、施設としての対応が重要である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な人については行なっています。現在は3人。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代筆をしたりダイヤルを回す介助をすることで、出来る人については行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、採光管理に気をつけ、季節の花等を飾って季節を感じていただくようにしています。	共有空間は、特に五感の配慮に注意している。近隣に住宅はなく、自然の風景が多い。特に花鳥風月等を中心に利用者が安心して暮らせる場所を目指している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	面談室、多目的室を使ったりして居場所作りに工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行なっています。	家族の写真、位牌はできる限り持ち込めるようにしている。また、使い慣れた物もできる限り持ち込めるように配慮している。居室は、できる限り本人の希望に沿うようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも出来る事は職員が支援しながら行うようにしています。		